

中学校第3学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日時 平成30年9月27日（木）2校時

指導者 教育センター所員 岡本 明美

1 題材名 家族・家庭や地域との関わりを考えよう（内容A－（3）、内容B－（6））

2 題材設定の趣旨

（1）題材観

新学習指導要領（平成29年告示）では、内容A「家族・家庭生活」の（3）「家族・家庭や地域との関わり」に、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容が新設されている。これまで、高齢者に関する内容は、高等学校の家庭科で扱っていたが、急速な少子高齢社会の進展に対応して、中学校でも取り扱うこととなった。中学校学習指導要領解説技術・家庭編には、「高齢者の身体の特徴についても触れること」「高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動ができるよう留意すること」とあり、この学習を高等学校家庭科における高齢者の介護に関する学習につなげることが明記されている。また、題材の設定に当たっては、「各項目や指導事項との関連を見極めながら、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるよう適切な題材を設定して計画を作成すること」とある。

中学生の時期は家族や地域の人々との関わりよりも、友人同士や同世代の人との関わりを優先しがちである。このような時期に、家庭生活や地域を構成する人として、高齢者について理解することは必要なことであると考え。生徒の登下校時の見守りや、地域の清掃・美化活動に積極的に取り組んでいるのは、地域の元気な高齢者であることが多く、地域を支えていると言っても過言ではない。生徒一人一人が家族や地域の人々に目を向け、家庭生活と地域との相互の関わりが生活をよりよくすることや、自分も地域を支える一員になり得ることを自覚できるようにすることが、家庭分野が目指す「よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫する実践的な態度」を養うことにつながると考える。また、近年、地震や大雨等の自然災害が多く起こっていることから、内容B「衣食住の生活」との関連を図って題材を構成し、効果的な学習が展開できるようにしたい。

（2）生徒観

事前アンケートによると、家庭分野の学習内容に対する興味・関心については、「ある」「だいたいある」と回答した生徒は「消費生活・環境」では83%、「家族・家庭生活」では65%であり、「家族・家庭生活」の内容は最も興味・関心が低い結果となった。必要性については、「必要だ」「だいたい必要だ」と回答した生徒は92%で、興味・関心は低いものの学習する意義については感じていることが分かった。高齢者ということばかりイメージすることについては、「体が弱く病気がち」「歩くのが遅い」「事故を起こしやすい」「認知症」「介護」などの回答が多く見られた。地域の高齢者については、「顔を見ても地域の高齢者かどうか分からない」「何も分からない」と回答した生徒が81%であったが、「地域の高齢者と関わりたい」「だいたい関わりたい」と回答した生徒は65%で、多くの生徒が何らかの形で関わりをもちたいと思っていることも分かった。家族や地域があまりにも身近で当たり前の存在であるがゆえに、無関心であったり深く考えていなかったりという現状があるが、関わり方が分からないために関われずにいる生徒もいるようである。

（3）指導観

自分と地域とのつながり、家庭生活と地域とのつながりについて考えることを通して、地域には、そこに住む人々が住みやすいように美化や防犯、伝統文化の継承など様々な活動があることを理解させたい。このような活動は中学生である自分たちにも無関係ではないということを知ること、これからは地域の一員として自分から挨拶をしたり、地域の活動や行事などに参加しようとする気持ちをもったりすることにつながると考える。中学生が地域の行事などに参加した際に、高齢者とお話する機会があると思われるが、協働の視点をもって主体的に関わったり、見守ったりすることができるようになることがねらいである。

指導に当たっては、まず中学生と高齢者を比較することで、なぜそのような違いが出てくるのかについて考えることから、高齢者の身体の特徴について理解することができるようにする。次に、高齢者疑似体験や簡単な介助体験を取り入れることで、実際の場面でどのような働きかけができるかについて実感を伴って考えることができるようにし、対話的な学習の中で思考を深めることにより、身体の特徴を踏まえた関わり方について理解できるようにしたい。さらに、内容B「衣食住の生活」との関連を図り、高齢者に配布する“災害への備えマニュアル”の作成についてのパフォーマンス課題を設定し、2学年次までの既習内容や高齢者疑似体験等によって得た高齢者の身体の特徴に関する知識及び技能を活用させ、住まいの安全対策について考え、工夫させる。災害への備えについて具体的に表現させ、それを高齢者に周知するための方法についても考えさせる。このような学びの過程を通して、地域の一員として中学生の自分にできることを考え、実践しようとする力につなげたい。

3 題材の目標

家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることや身体の特徴を踏まえた高齢者との関わり方について理解し、高齢者など地域の人々と協働する方法及び高齢者にとって安全な住空間の整え方について考え、工夫できるようにする。

4 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
家庭生活と地域との関わりに関心を持ち、地域を支える一員としてできることを考え、実践しようとしている。	高齢者の身体的な特徴や配慮事項を踏まえ、地域の人々とよりよく関わる方法について考え、工夫している。 自然災害に備えた安全な住空間の整え方について考え、工夫している。		家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。 高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方について理解している。

5 題材の指導計画と評価計画

時配	○学習内容、学習活動	教師の指導・支援	●評価規準と(評価方法)
1	○自分の生活と地域との関わりについて考える。 ・「地域を支える一員として、私たちにできることは何だろうか」という題材を貫く問いを全体で共有する。 ○既習事項や生活経験を基に、衣・食・住の項目について、中学生と高齢者を比較し、その理由を考察することにより高齢者の身体の特徴をつかむ。	・日頃の自分の行動(近所の人への挨拶や地域行事への参加等)を想起させる。 ・阪神淡路大震災時、生存者が多かったのは、地域のつながりが深かった地域であることを知らせ、その理由を考えさせることで、関心をもたせる。 ・電子黒板にヒントになるようなポイントを衣・食・住のまとめりに掲示し、思考を助ける。	●家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。【知識・理解】(ワークシート) ●高齢者の身体の特徴について理解している。【知識・理解】(ワークシート)

2 本 時	<p>○高齢者疑似体験を通して、高齢者の身体的な特徴を実感する。</p> <p>○介助体験を通して、介助する側とされる側の気持ちについて考える。</p> <p>○高齢者との関わり方についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・疑似体験グッズを用いて、視覚・触覚・聴覚の老化を体験することで、高齢者の身体的特徴について理解を深め、高齢者の気持ちに寄り添わせる。 ・ペアでの立ち上がりや歩行の介助体験を通して、高齢者に必要な配慮事項について考えさせる。 ・高齢者との関わり方について、自分のこれまでの経験や体験活動と関連付けて協働の視点から考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の身体的な特徴や配慮事項を踏まえ、地域の人々とよりよく関わる方法について考え、工夫している。【工夫・創造】(ワークシート)
3	<p>○パフォーマンス課題に取り組む。</p> <p>○自分の生活と地域との関わりについて振り返り、実践内容を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題「高齢者に配布する災害への備えマニュアル作成」に取り組ませることで、学んだ知識及び技能を活用し、安全の視点から住空間の整え方について考えさせる。 ・題材を貫く問いに対する自分の考えをまとめさせ、学級で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然災害に備えるために安全を考えた住空間の整え方を工夫する。【工夫・創造】(ワークシート) ●家庭生活と地域との関わりに関心をもち、地域を支える一員としてできることを考え、実践しようとしている。【関心・意欲・態度】(観察・ワークシート)

6 本時の目標

高齢者の身体的な特徴や気持ちを考慮した関わり方について考え、工夫できる。

7 本時の展開 (2/3)

	学習活動	指導・支援	評価 (方法)
導入	1 前時の学習内容を確認する。 2 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら前時の学習を想起させる。 これまでの生活経験を基に、どのような関わり方ができるか考えさせる。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 高齢者とどのように関わればよいだろうか </div>		
展開	3 高齢者疑似体験をする。 ① 特殊サングラスをかけて室内を見る。 ② 手袋 (軍手) をつけて文字を書く。 ③ 教師の流す音声データが何を言っているのか聞き取る。 ・体験後、気づきをワークシートに記入する。 予想される生徒の反応等 ・見えづらい。 ・指が曲げにくい。書きにくい。 ・何を言っているのか分からない。聞き取れないな。	<ul style="list-style-type: none"> 疑似体験・介助体験の約束事を伝える。 ◇高齢者になりきろう。 ◇怪我や事故がないようにしよう。 全ての体験を確実にできるように、①～③は教師の指示で1つずつ進めていく。 視覚の体験は無理をさせないように、生徒の様子を見ながら進め、随時声掛けをする。 	
	4 歩行と立ち上がりについての介助体験をする。 ・介助する側とされる側の両方を体験する。 ・介助される側は両ひざにサポーターを巻き、片方の足首に3個のおもりを付ける。介助する側は相方を椅子から立ち上がらせ、家庭科室内を付き添いながら歩き、また椅子に座らせる。 ・体験後、介助した時と介助された時の気持ちや気づきをワークシートに記入する。 予想される生徒の反応等 ・結構重い、力が必要。 ・歩く時にはどこについておけばいいのだろう。 ・おもりを3個付けると歩きづらいな。	<ul style="list-style-type: none"> 介助のポイントが何なのかを考えながら、介助に取り組ませるようにする。 真剣に取り組むことができていないペアがある場合は、声を掛ける。 机間指導をしながら、安全に体験活動ができているかを随時確認する。 適切な介助の仕方を教師が実際に見せることで、正しい理解へ導く。 	

	<p>5 地域の運動会で高齢者と接する時に、どのように関わればよいかについてグループで意見を交流する。</p> <p>6 関わり方について自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の運動会という具体的な場面を想定して、協働の視点で考えさせるようにする。 《場面設定》 地域の運動会に参加したら、高齢者が数多く参加されていました。プログラムを見ると、高齢者のみの競技もありますが、中学生と高齢者とがペアで取り組む競技もあるようです。今日は1日同じテントで過ごします。どのように関わればよいか、考えましょう。 グループ内での対話活動を通して、考えを深めさせる。 	<p>高齢者の身体的な特徴や配慮事項を踏まえ、地域の人々とよりよく関わる方法について考え、工夫している。【工夫・創造】(ワークシート)</p>
<p>終末</p>	<p>7 キーワードをワークシートに記入する。</p> <p>8 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 題材を貫く問いについての自分の考えをまとめる際に役立てられるように、ワークシートに今日の学習のキーワードを記入させる。 	

8 本時の評価規準と判定基準

本時の評価規準	判断するポイントと指導の手立て
<p>高齢者の身体的な特徴や配慮事項を踏まえ、地域の人々とよりよく関わる方法について考え、工夫している。 【工夫・創造】(ワークシート)</p>	<p>おおむね満足 (B) と判断するポイント 地域の人々と関わるためにできることについて、高齢者の身体的な特徴や配慮事項を具体的に挙げて説明している。</p> <p>十分満足 (A) の状況例 (考え方: 高齢者との関わりを自ら生み出そうとするなど積極的な関わりが表現されている場合等) 高齢者は関節が動かしづらかったり、耳が遠くなったりしているので、地域で高齢者の方と関わる時には、まず自分から声をかけて手伝うことがないかを尋ねるなどして、一緒に活動できるようにしたい。立ち上がり際にはさり気なく手を貸せるようにしようと思う。</p> <p>指導の手立て (C) よりよい関わり方について考えられない場合は、生徒のプライバシーに配慮し、疑似体験や介助体験をしたときに抱いた感想を基に考えるよう助言する。</p>